



 **春季彼岸会法要**
 **子供会報告**
 三月二十日(水) 午後一時三十分勤修
 詳細は2頁
 詳細は3頁



2023年 報恩講 (隆先生)



修正会勤行



聞法会 (我聞の会)

光照寺寺報
 発行所
 真宗大谷派 弘興山
 宗教法人光照寺
 〒331-0821
 さいたま市北区別所町102-2
 電話：048-651-2781(代)
 FAX：048-651-2753
 E-mail
 yasuragi@beige.ocn.ne.jp
 ホームページ
 http://koshoji76.jp
 発行人 住職 池田孝三郎

親鸞聖人のみ教えに聞く会

- ◆ 令和6年3月21日(木)
- ◆ 午後1時30分～4時30分
- ◆ テキスト:『教行信証』
- ◆ 講師:延塚知道先生(大谷大学名誉教授)
- ◆ 会場:光照寺本堂
- ◆ 会費:500円

※ご参加の方は事前に当寺へお申し込み下さい。人数を制限する場合があります。
 ※5月9日(木)・7月9日(火)・9月26日(木)・11月18日(月)



春季彼岸会法要

- ・ 3月20日(水)春分の日
- ・ 午後1時30分～3時まで(1時受付)
- ・ 光照寺本堂にて
- ・ 勤行・法話

※準備の都合上、出席人数をご連絡下さい。
 預骨されている方は率先してお参り下さい。
 ご参詣をお待ちしております。

彼岸参り

- ・ 3月17日(日)～23日(土)の期間
(但し20日は除く)

※ご希望の日にちをお知らせ下さい。時間につきましてはこちらで調整させていただきます。ご自宅か当寺のいずれかで読経いたします。

ひとくち 歎異抄

羅漢:「一念に八十億劫の重罪を滅すと信ずべしということ。」とはいかに。第14章



「一生のあいだもうすところの念仏は、みなことごとく、如来大悲の恩を報じ徳を謝すとおもうべきなり。念仏退転せずして往生すべし。」

川越喜多院の五百羅漢



ヨガ



ベビーマッサージ



子供会報告

光照寺子ども会、ポニークラブ、
子ども報恩講 大塚 陽子

令和5年12月25日(月)、大人9人、小人8人の参加により、お寺の本堂にて受付、勤行の後、前坊守あいさつ、自己紹介をして、私大塚がゲームをした後、紙しばい、ほうぎのさとりシニリハンタカの物語を読み、少しお話しをしましたところ、住職や野嶽さんによる補足の説明を頂きました。その後、工作でプラスチック板に油性ペンで絵を書き、オーブントースターで焼いて、穴にひもを通してオリジナルキーホルダーができました。子ども達は各自真剣に取り組んでいました。おやつを食べた後、池田唯奈ちゃん親子により、なぞなぞとゲームで遊びました。その後、音楽に合わせてプレゼント交換して皆さんで楽しみました。今回も午後からお寺での開催でしたが、暖かい部屋の中で、にぎやかで楽しい一時を過ごしました。

次回は4月5日(金)です。皆様のご参加をお待ちしています。



鈴の音
人間を救うのは如来
だけれども、如来を知る
のは聞法だけだ
(親鸞の仏道より)
寺川俊昭



お知らせ

寺務所より

●法要のご案内

●春季彼岸会法要

三月二十日(水)、午後一時三十分より勤修。

●光照寺護持会

会員の方は護持会費の納入をお願い致します。又、随時新会員受付中。別紙案内をご覧下さい。総会は六月二十六日。

●聞法会のお知らせ

●親鸞聖人のみ教えに聞く会再開。

講師は延塚知道先生(大谷大学名誉教授)三月二十一日、五月九日、七月九日、九月二十六日、十一月十八日、午後一時三十分～四時三十分。『教行信証』を学んでいます。ご参加の方は事前に当寺へご連絡下さい。会費五百円。

●大経の会

二月二日、十一月五日、午後二時～四時。講師は住職。『正信偈讃仰』(七)を学んでいます。

●我聞の会

三月二十七日、四月十日、五月十五日、午後二時～四時。『歎異抄』を学んでいます。講師は住職。

●微風学舎

三月十三日、四月十七日、五月二十二日、午後二時～四時。講師は住職。『高僧和讃講義(二)』(延塚知道著)を学んでいます。

●サークル

●聲明サークル、三月八日、五月二十日、七月三十日。午後二時～四時。講師は住職。

●絵解きサークル、二月二十七日、四月三十日、六月七日。

●子供会
四月五日(金花まつりです)。

●寺ヨガ

お寺でヨガ。毎週月曜十時～十一時。講師トモヨ先生。興味ある方はお問い合わせ下さい。

●ベビーマッサージ&おはなし会
毎月第三火曜十時三十分～十二時、生後二ヶ月～一歳位までの赤ちゃん対象。インストラクターは遠藤尚子先生。会場はお寺。興味ある方はお問い合わせ下さい。

●お願い

ご自宅で法事の際は駐車場をご利用下さい。
住所・電話番号変更の際は必ずご連絡下さい。

俳句・川柳

吉澤

光昭

手話をもて梅のかほりを告げあふ子
天地にあまねく梅の日和かな
壁泉のしぶきにかすか梅ほどけ

短歌(詩)

佐々木

玄吾

会館の烟で育つえんどうに
妻と二人で 支柱たてたり

勤行し病院に行き買物し
今日一日を 二人で過ごす

釋尼 邦照(前坊守)

御影堂 聖人すずめる念仏を
日々の生活 アミダと共に

亡き夫と 重ね歩みし 半世紀
きざんだシワの 数のおおきよ

ナマンドブ 鈴音すずねにきこえし
先代の

耳にとどまれり 声よふたたび

篠原 潤子

彼を追ひ北海道から東京へ
心配なんて何も無かった

二人して二十五円のコロツケを
食みし中野の三畳の部屋

スタバカフェ。夫と来た席腰かける
パパに会いたく涙こぼるる

DVD阿弥陀だより亡夫と観た
二人で行った長野飯山

ピーナッツあんみつ供え三回忌
亀虫になり夫は墓前に

延命の拒否のサインをする側で
娘は同意する吾はニンマリする

日めくりの大カレンダーめくりつつ
人生二度なし恩師の言葉



穏やかな正月
山田 邦興 画

梵鐘

孫が「苦海浄土」(石牟礼著)の感想文を書いてくれた。水銀汚染で苦しむ人々の様子と心情、行政の対応が書かれている。その中で「苦海が何で浄土と言われるのか」に焦点を当て考えていた。汚染された姿を苦海ということになるが「どこで浄土と言えるのか、浄土とはなにか」との問いが電話やメールで入ってきた。当事者の行動記録から苦悩の開放をどう見出し出したかを読み取ってとアドバイスした。苦しみと限界から今を受け入れ生かされていることに気がつく瞬間を感じて欲しい。人生で苦悩に陥ってどうにもならない時に今の問が生かされるよと告げた。

合掌 積尼雅亮